

## 阿弥陀岳 中央稜から御小屋尾根

◎山行日 2016年11月12日  
◎メンバー Yaza (L)、Kane  
◎報告 Kane

久しぶりにハガ岳に行くというので一緒に行きたいと思いました。どのルート？ えっ！阿弥陀岳の中央稜？ 初めて聞くルートでした。11月に入り初冠雪とか山々では雪の話題が出て来ました。ハガ岳はまだ雪がないのかな？ 雪がなければ行けるのかな？ と安易に考えていると、よくわからんが靴は軽登山靴の他に冬靴も持って行こう。アイゼンは軽アイゼンの他に、冬靴を持って行くので、冬用アイゼンも用意しようという指示が入りました。不安を感じる間を与えないのは相変わらずのYazaさんでした。

どうせ車で行くのだからあらゆることを考えて道具を積み、現地へ行ってから選べばいい。特にこの時節はそれが一番だと、有無を言わせません。

前夜に出発しました。中央道の諏訪湖 S.A.で車中泊をして、翌朝は5時30分に起床しましたが予定より30分遅れたとのこと。Yazaさんも初めてのルートで、しかも易しいとはいえバリエーションで不安があり、早めに取り付きたかったようです。諏訪南 I.C.から一般道に出て船山十字路に着いたのは7時でした。軽登山靴と軽アイゼンで行こうと決め、支度をして7時20分に歩き始めました。

ガイドブックの記載通りに林道を奥へ進みました。途中で南稜への分岐を横目に見て前へと進みました。Yazaさんは20年以上も前に冬に南稜から阿弥陀岳に登ったそうです。テントを担いでの山行で、あの頃は元気だったなぁと思い出していました。そしてその時はこの船山十字路に出るのに、美濃戸に車を停めて、学林というバス停辺りから林の中の踏み跡を横切ったりしてわかりにくかったと説明してくれました。

林道の終点で山道に変わり沢沿いに奥へと進みました。途中分かりにくい所もありましたが、右岸に上へ向かう道がありそこを上って行きました。かなり急でジグザグの細い道でした。一旦急坂は終わり展望の開けた場所に出て、頭上には岩の稜線が連なっていました。角度を変えているのでどれが阿弥陀の山頂なのか、そもそも阿弥陀の山頂がここから見えているのかもわかりません。天気が良く空気も澄んでいるようすばらしい景色です。と思ったのもつかの間、再び急坂が始まりました。樹林帯を抜けて草付きの急斜面をゆっくりと上って行きました。途中で一度休憩をしましたが、集中していないと転げ落ちそうな所です。しかし背後には雲海が広がり、その上に御嶽山や乗鞍岳が見えていました。

しばらく進むと頭の上には岸壁が聳えていました。下部岸壁です。踏み跡が右に回り込むように着いていますが、急坂で雪も所々に出てきました。全部雪面というわけではな

いのでアイゼンを着けずに進みましたが、Yazaさんは時々緊張していました。そしてYazaさんの指示で、途中でハーネスを着け一度ロープを出しました。

高度を上げるに連れ雪が固くなってきましたが、ノーアイゼンのまま進みました。再び岸壁です。これが上部岸壁です。今度は左側に踏み跡がありそれを辿りながら進みました。雪面は固く、靴で一步一步踏み締めて登っていました。突然、Yazaさんが「ここでアイゼン着けよう」と言うのです。上に平になっているような所まであと2~3mでした。斜度もあり左側は切れ落ちています。「えっ、ここで？」

と返答すると「じゃあ失敗するなよ」と怒ったような声が返ってきました。木の根を掘んだりして、決して滑らないようにして上部岸壁の上に出ました。下部岸壁が真下に見えていました。展望が開けたというよりは高度感抜群です。この先は一般ルートのようにしっかりと道がついていましたが、雪があります。ここでアイゼンを着けました。軽アイゼンながら雪面をしっかり捉えてくれます。

急斜面がまだ上に延びていました。ゆっくりと進みます。左側が切れ落ちたヤセ尾根を登ると、ロープが張ってありました。御小屋尾根に合流したと知ったのは少し先に標識があったからです。この時初めて、これで何とか阿弥陀岳の頂上に立てるかなと思いました。登山者がひとり岩に腰かけていました。簡単な挨拶をして頂上に向かいましたが、岩尾根が続きクサリやはしごが掛かっていました。かなり昔に美濃戸から御小屋尾根を辿って阿弥陀岳をピストンしたことがあり、クサリやはしごを通過しているうちに少し記憶が戻ってきました。

頂上のすぐ手前で、下りてくる登山者に会いました。Yazaさんが挨拶をした後、何やら話をしていました。御小屋尾根の様子を聞いていたようです。先の標識の立っていたすぐ前に、雪に覆われて深く掘れた道がついていましたが、そこには通行止めのロープが張ってあったのです。そして御小屋尾根の表示はあったものの矢印がその先だというふうに書かれていたのです。

要は私たちは御小屋尾根の下り口が分からなかったのです。

4時間20分かかりましたが阿弥陀岳の頂上です。目の前にお馴染みの、全体に薄らと雪化粧をした赤岳が聳えていました。天気も良く、真っ白くなった北アルプスが見えます。南アルプスが近くに見えます。これも雪化粧をしています。山頂は風もなく冬の装いをしている周囲の風景に反して暖かです。ゆっくりとおにぎりを食べてお



(阿弥陀岳山頂)

茶を飲み、20分程いました。

さて下山です。先の通行止めのロープがあった所を越して進むと、御小屋尾根に合流かと思われた所のロープに沿って下りていきました。するとその先の右側にさらにロープが張っており、難なく下り口が分かりました。ロープは長く張られていました。それ程の急降下でした。ロープを掴み浮き石に気をつけて下りました。でもスピードは出ません。Y a z aさんは途中で両足とも痙攣を起こしたようで、漢方68を飲んでいました。樹林帯に入り少しずつ紅葉の葉が多くなってきて、やがて朝歩いた林道に出ました。駐車場はすぐそこでした。良い山旅ができました。

《記録》

7:20 船山十字路→(中央稜)→11:40 阿弥陀岳頂上~12:00 阿弥陀岳頂上→(御小屋尾根)→14:50 船山十字路

